■9月会山行荒沢岳集中■　思わぬ大雪渓？が

越後荒沢岳

中ノ岐川灰ノ又沢裏荒沢

長谷川

【日時】　2006年9月2日(土)～3日(日)
【メンバー】L飯田、野村、高柳、山川、長谷川

私にとっては例のこどくひさしぶりの山となってしまった。準備をするときはつらいが行ってしまえばその気持ちはどこへやら。中ノ岐本流の綺麗なナメを見ながら灰ノ又橋までの行程は順調に進んで行った。灰ノ又橋にて他のパーティと合流し、灰ノ又沢へ入渓する。ここから裏荒沢出合までは灰ノ又パーティとほぼ歩調をともにした。

花降沢先の25m4段滝は左壁右壁を登りながら越えて行く。3段目下ふかみのへつりではみんなが後続のドボン！に少々期待を込めて見守っていた。

やがて裏荒沢の出合に到着。入るとすぐにイワナの魚影があったようで飯田さん、野村さんが竿を出しながら進んでいく。すぐにヒットしたようだった。今回は竿が見つからず、適当な木の棒に仕掛けをつけ釣り気分を味わう。ついでに高柳さんにも棒釣りを勧めてしまう。しかし、今回も棒では釣れなかった。結構本気でやっているんだけど、、、

釣りをしながら登っていくと最初の8m滝が現れ、ここから滝が連続して現れた。少々おっかなびっくりではあるが、ザイルやお助けを頼りに越えていく。沢が左右にカーブし、F3の8mを左の小さな尾根から巻く。やがて少し寒いなと思っていると雪渓が現れ、二俣手前から大雪渓が始まった。雪渓はどこまでも続いていそうな感じである。
幅2,30m、厚さも10mくらいありそうだ。途中の滝は埋まっている。長い雪渓歩きに足が疲れはじめた頃、雪渓が途切れ途切れになりそろそろテン場を探そうということになった。だが上部にはテントを張れそうなところもないとのことで冷たい風がさけられそ

うな端の雪渓にテントを張る。雪渓の切れ目の河原で焚き火をするが、雪渓を通る風がかなり寒い。飯田さんの持ってきていたサムゲタンで体が本当にあったまる。またイワナや豪華海鮮丼で満腹となり、眠りにつく。

翌日は晴れやかな中、出発する。12m、15m多段滝を順調に越えていき、ゴーロで高度を稼いでいくと、三俣となる。左に向かう滝を直登し、少々わかりづらい分岐で右に進路を取ると、ヤブっぽいルンゼをたどる。最後に急斜面を登ると荒沢岳の近くの登山道に出て、山頂へ到着。多少雲が残るが、昨日の雪渓の寒さも忘れるほどポカポカした陽気に思わずウトウトしてしまった。

やがて全員集合し、賑やかに登山道を降りていく。前嵓付近の岩場では緊張した。振り返るとかなりの急斜面に登山道がついていることにみんなで感心する。その後の長い下山で足が痛くもなったがなんとか銀山平に到着した。

この山行は天候にも恵まれ、登れる滝が多い遡行を存分に楽しめたと思います。また釣り気分を味わったり、思わぬ雪渓にも驚かされるなど充実した山行となりました。

【行程】9/2 雨池橋(7:45)～灰ノ又橋(8:45/9:00)～花降沢出合（10:15）～裏荒沢出合(11:25/11:50）～二俣(14:00)～テン場(15:30)

9/3 テン場(6:30)～1700m三俣(8:20)～山頂(9:00)

【地図】奥只見湖、平ヶ岳